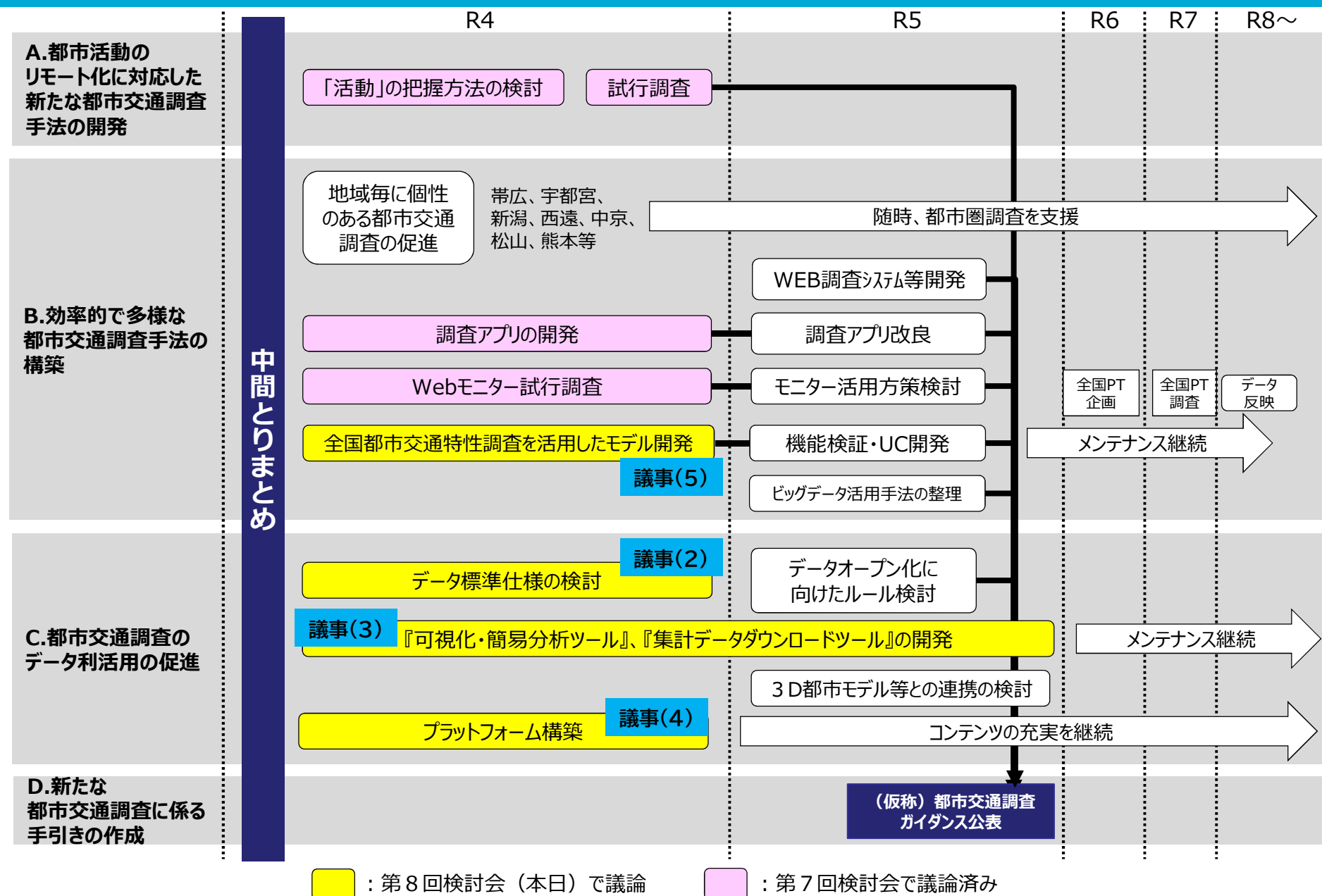


新たな都市交通調査の実現に向けたロードマップ



中間とりまとめと本日の検討会との関係

中間とりまとめより

B.効率的で多様な都市交通調査手法の構築

【アクティビティ・ベースド・シミュレータの開発】

- ・全国PT等を用いたシミュレーションと小標本のパーソントリップ調査を連携させた調査手法の構築に取り組むべき

C.都市交通調査のデータ利活用の促進

【パーソントリップ調査データのオープン化・調査仕様の共通化】

- ・調査実施を効率化するため、企画や実施にあたり共通化できる部分については共通仕様を定めることが有効である。
- ・各都市圏が異なる課題を抱えていることを考慮し、地域個別に対応できるように自由度を残しておく
- ・都市圏が独自に挑戦する調査については、国が積極的に後押しし、結果のフィードバックを得て、調査の共通仕様の見直しを継続的に実施

【簡易分析及び可視化のためのツールの提供】

- ・多様な主体がデータを利活用できるようなツールの開発を促進する
- ・データ分析の専門家と、専門家ではない人の両方が使いやすい環境を構築することが重要

【都市交通調査プラットフォームによる知見の共有】

- ・新たな都市交通調査をみんなで育てていくため、これを支える場として、情報交流、ツールの入手、事例共有、人材育成等を支援する、都市交通調査の統合プラットフォームを構築

本日の検討会との対応

議事（２）PT調査データの標準仕様

- ・前回の検討会でデータ標準仕様の基本的な考え方を提示しご意見を頂いた
- ・本日は、前回のご指摘を含めて整理した内容についてご意見いただく

議事（３）PT調査データの可視化・簡易分析ツール、集計データダウンロードツール

- ・現在、PT調査データを用いた可視化、簡易な分析、データのダウンロードが可能なツールを開発中

議事（４）都市交通調査プラットフォーム

- ・都市交通調査のプラットフォームが提供する機能についての検討およびホームページの作成に着手中

議事（５）全国都市交通特性調査データを活用したシミュレーション

- ・国総研において、全国都市交通特性調査データを用いて、都市圏レベルの施策検討に活用可能なシミュレーションの開発検討を推進中